



2023年度 環境経営レポート

活動期間 2023年4月～2024年3月



発行 2024年4月

承認	作成
松本	村越

諏訪湖ハイトラスト株式会社

目次

1. 事業活動の概要	．．．	P	1
2. 主要設備概要	．．．	P	4
3. 実施体制	．．．	P	5
4. 環境経営方針	．．．	P	6
5. 環境経営目標と実績	．．．	P	7
6. 環境経営活動の結果と評価	．．．	P	9
7. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	．．．	P	17
8. 代表者による全体評価と見直し	．．．	P	18

はじめに

当社は 2018 年 4 月 1 日に、環境マネジメントシステムを立ち上げました。このシステムでは、当社の事業年度に合わせ、毎年 4 月から翌年の 3 月までをひとつの区切りとしています。この環境経営レポートは、2023 年度を対象にまとめました。

1. 事業活動の概要

1-1. 名称及び代表者名

会社名	諏訪湖ハイトラスト株式会社
代表取締役社長	山口隆司
現場総括責任者	松本和明

1-2. 所在地

〒394-0055 長野県岡谷市字内山 4769 番地 14

1-3. 環境保全関係の責任者及び担当者

EMS 代表者	松本和明（総括責任者、BT 主任技術者）
環境管理責任者	村越冬季（電気主任技術者）
環境事務局	村越冬季・山本恵理子（業務管理員）・井口ゆき（事務員）
部門長	寺口誠次（運転責任者）

1-4. 連絡先

TEL 0266-78-1590 FAX 0266-78-1591

E-mail koshu3@takumatechnos.co.jp

HP <http://www.suwako-ht.jp>

1-5. 事業内容

一般廃棄物処理施設の運営・維持管理業務

1-6. 事業規模

法人設立 2013年11月

資本金 30,000万円

処理対象物 可燃ごみ、破碎・選別後残渣（大型可燃ごみ）

処理能力 110t/日（55t/24h×2炉）

処理量（焼却量） 27,525 t/年（2023年度）

従業員 32名

延床面積 8,572.86 m²

事業期間 2016年12月1日 ～ 2036年11月30日（20年間）

1-7. 対象範囲

全組織・全活動

1-8. 事業概要

諏訪湖ハイトラスト株式会社は、湖周行政事務組合（岡谷市、諏訪市、下諏訪町）が発注する「諏訪湖周クリーンセンター（愛称：eco ポッポ）の運営・維持管理業務」を実現するために設立された特別目的会社（SPC）です。

本事業は、一般廃棄物処理施設である諏訪湖周クリーンセンターの運転、ユーティリティの確保、日常点検、定期点検、部品等の調査、補修等の運営維持管理を、2016年12月1日から2036年11月30日までの20年間にわたり実施するものです。

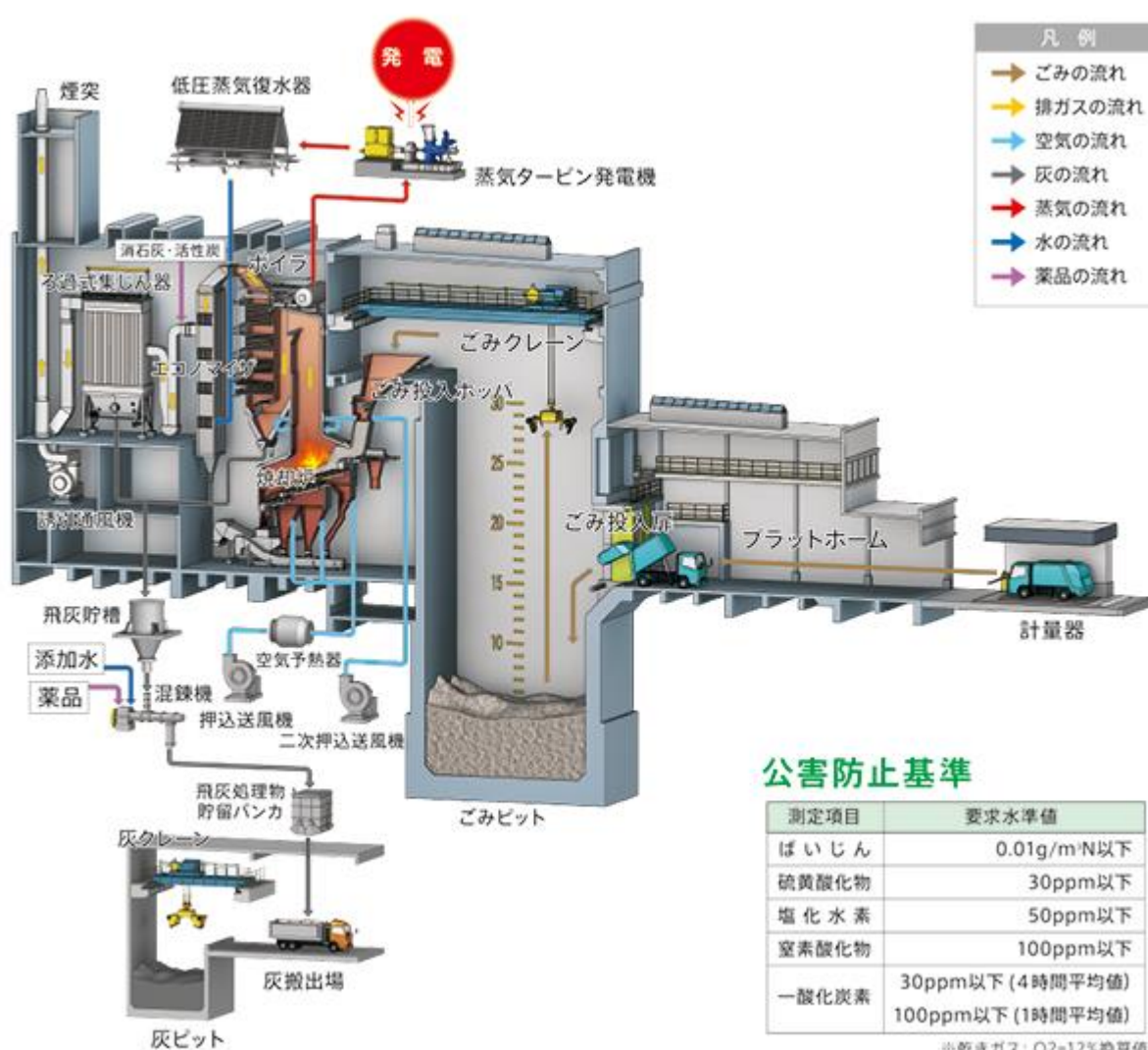
特別目的会社（SPC : Special Purpose Company）とは

事業の独立性の確保を目的に特別目的会社（SPC）を設立することで、出資者等の破たん等が生じた場合でも事業の実施に影響を受けない体制を構築することが可能です。

本事業で諏訪湖ハイトラスト(株)が特別目的会社（SPC）となり、20年間の運営維持管理を行います。

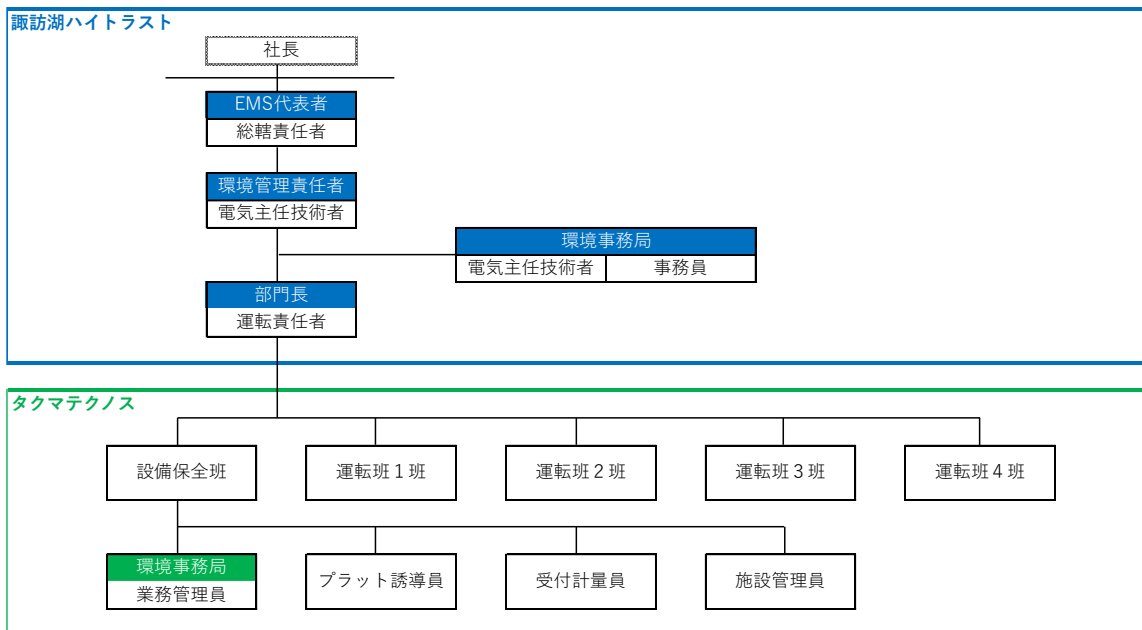
2. 主要設備概要

受入供給設備	計量器、ピット・アンド・クレーン方式
燃焼設備	全連続燃焼式焼却炉(ストーカ炉)
燃焼ガス冷却設備	ボイラ式
排ガス処理設備	ろ過式集じん器、有害ガス除去方式
灰出設備	●焼却灰:加湿処理 ●飛灰:薬剤処理
発電設備	蒸気タービン発電(発電出力2,050kW)
通風設備	平衡通風方式



3. 実施体制

実施体制図及び役割・責任・権限表



担当者	役割・責任・権限
EMS代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認・評価 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境経営の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練の実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

4. 環境経営方針



1. 経営理念

諏訪湖ハイトラスト株式会社は、株式会社タクマと株式会社タクマテクノスにより設立された特別目的会社として、諏訪湖周クリーンセンターにおいて湖周行政事務組合との事業契約に基づき、一般廃棄物焼却処理施設の運営維持管理事業を実施する運営共同企業体です。

この事業の遂行にあたっては、株式会社タクマの社是「技術と人と地球を大切にする」および、本事業の基本方針である「自然を守り、人を育み、地域をつなぐ」事業所運営を目指します。

2. 活動指針

- 1) 当社の経営理念に基づき、運営維持管理業務の遂行にあたっては、次の活動を積極的に推進し、継続的に経営を改善します。
 - ① 搬入される一般廃棄物の適切な受付
 - ② 一般廃棄物の適正かつ効率的な処理
 - ③ 発生する排ガスの安定処理
 - ④ 従業員の安全と健康を確保する安全管理
 - ⑤ 運営状況を地域住民に発信する啓発活動
- 2) 適用される環境関連法規および湖周行政事務組合など行政からの環境に関わる指示事項を遵守します。
- 3) 環境経営方針は全従業員に周知徹底し、一般にも公開します。

制定日：2018年 4月 1日

諏訪湖ハイトラスト株式会社

EMS代表者 松本 和明

5. 環境経営目標と実績

5-1. 環境経営目標

No.	項目	単位	基準年度実績	年度目標（計画値）			
			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
	ごみ搬入量	t	28,866	27,968	27,758	27,560	
1	CO2総排出量の削減	kg-CO2	75,912	102,944	95,474	93,579	
2	ごみ発電量の確保	MWh	15,146	13,900	13,770	13,845	
3	購入電力の削減	MWh	111	110	110	105	
		kg-CO2	42,243	41,690	41,690	39,795	
4	灯油使用量の削減	kL	13.5	24.6	21.6	21.6	
		kg-CO2	33,670	61,254	53,784	53,784	
5	消石灰使用量の削減	t	152	148	139	123	
6	苛性ソーダ使用量の削減	L	2,075	3,175	3,175	3,175	
7	塩酸使用量の削減	L	1,935	2,542	2,542	2,542	
8	飛灰処理薬剤使用量の削減	L	14,554	14,769	13,442	14,771	
9	上水使用量の削減	kL	13,316	13,028	11,560	12,479	
10	焼却灰搬出量の削減	t	2,046	2,038	1,965	2,013	
11	飛灰搬出量の削減	t	801	786	763	723	
12	イベントの有効性の向上	回	1	2	1	1	
13	緊急停止0（タービン非常停止）	回	0	0	0	0	
14	地域清掃活動参加	回	1	2	2	2	
15	改善提案	件	2	2	2	2	

(注1) 本施設の運転計画に基づいて算出するため、目標値が基準年度の実績値を超過する場合があります。

(注2) 購入電力のCO2排出係数：0.379kg-CO2/kWh（2020年度中部電力調整後排出係数）

5-2. 年度目標（2023年度）に対する実績と結果

No.	項目	単位	2023年度		
			目標値	実績値	結果
	ごみ搬入量	t	27,560	26,265	減少
1	CO2総排出量の削減	kg-CO2	93,579	73,050	○
2	ごみ発電量の確保	MWh	13,845	13,801	×
3	購入電力の削減	MWh	105	98	○
		kg-CO2	39,795	37,181	○
4	灯油使用量の削減	kL	21.6	14.4	○
		kg-CO2	53,784	35,868	○
5	消石灰使用量の削減	t	123	131	×
6	苛性ソーダ使用量の削減	L	3,175	2,048	○
7	塩酸使用量の削減	L	2,542	1,715	○
8	飛灰処理薬剤使用量の削減	L	14,771	13,683	○
9	上水使用量の削減	kL	12,479	12,207	○
10	焼却灰搬出量の削減	t	2,013	1,814	○
11	飛灰搬出量の削減	t	723	693	○
12	イベントの有効性の向上	回	1	1	○
13	緊急停止0（タービン非常停止）	回	0	1	×
14	地域清掃活動参加	回	2	2	○
15	改善提案	件	2	2	○

(注1) 購入電力のCO2排出係数：0.379kg-CO2/kWh（2020年度中部電力調整後排出係数）

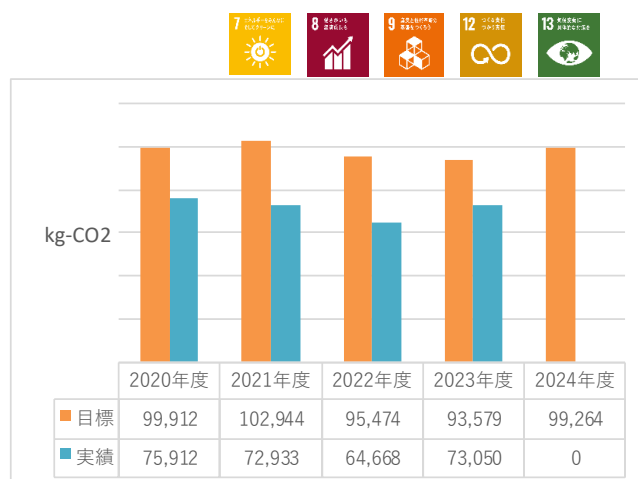
6. 環境経営活動の結果と評価

No.1 CO2総排出量の削減

2023年度	目標	93,579 kg-CO2
	実績	73,050 kg-CO2
	達成度	22 % 削減

主な取組内容

- ・ ゴミ発電量の確保
- ・ 購入電力の削減
- ・ 灯油使用量の削減



結果と評価

- ・ 個別の目標を達成したことにより
本項目の目標を達成し、取組みの成果を確認できました。

次年度目標

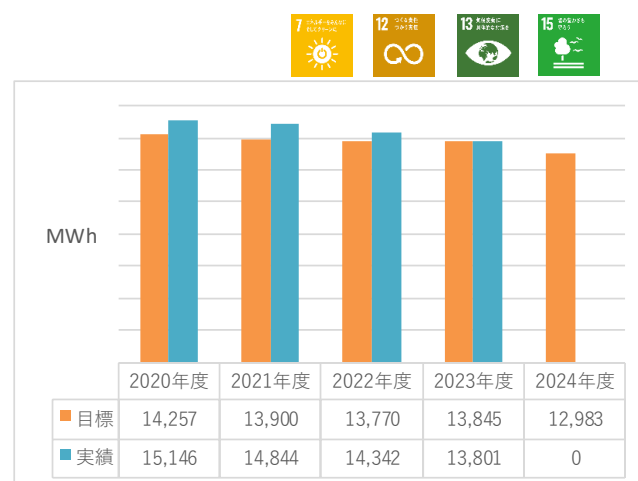
- ・ 本項目に係る個別の目標を全て達成する事でCO2排出量の削減を図ります。

No.2 ゴミ発電量の確保

2023年度	目標	13,845 MWh
	実績	13,801 MWh
	達成度	-0.3 % 減少

主な取組内容

- ・ 焼却炉の安定稼働



結果と評価

- ・ トラブルによる計画外のタービン停止や電力会社依頼による発電所の自立運転をしたことにより、目標を達成できませんでした。

次年度目標

- ・ 焼却炉の安定稼働

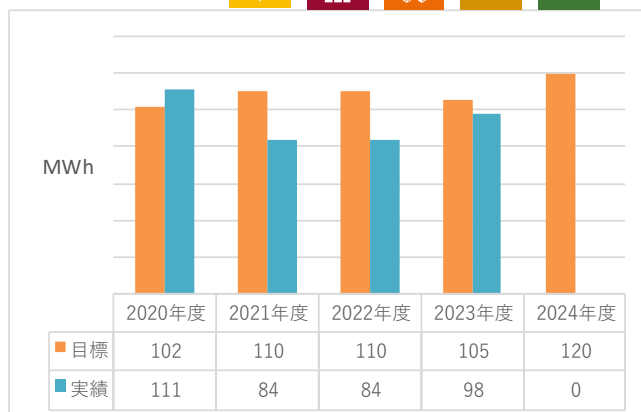
No.3 購入電力の削減



2023年度	目標	105.00 MWh
	実績	98.10 MWh
	達成度	6.6 % 削減

主な取組内容

- ・場内空調および照明の管理
 - ①夜間帯の不必要な空調・照明の停止
 - ②空調管理表のスケジュール運用
 - ③共通休炉期間の節電
 - ④蛍光灯照明のLED化工事



結果と評価

- ・共通休炉期間において節電計画を実施。また、構内蛍光灯照明を順次LED化へ交換工事実施。空調は常時スケジュール設定を見直し、適切な運転管理を実施した。
- ・タービン非常停止による計画外の購入電力が発生したが、前述の取組みにより目標を達成できました。

次年度目標

- ・場内空調および照明の管理、共通休炉期間の節電計画の実施
- ・蛍光灯のLED化工事の実施

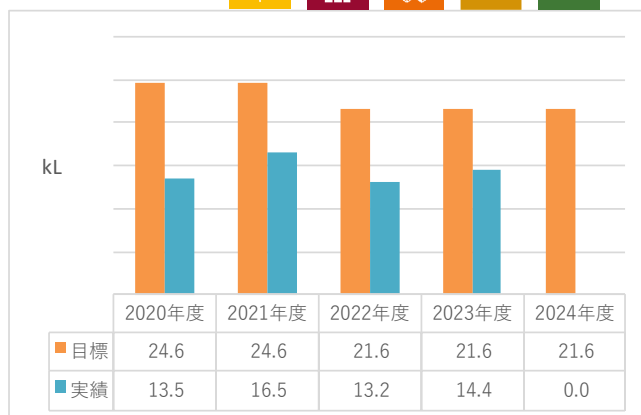
No.4 灯油使用量の削減



2023年度	目標	21.6 kL
	実績	14.4 kL
	達成度	33.3 % 削減

主な取組内容

- ・焼却炉の立上げ立下げ工程の管理



結果と評価

- ・トラブルによる焼却炉の停止やごみホッパブリッジ等による計画外のバーナの稼働（灯油使用）がありましたが、定常時の立上げ立下げ工程の管理が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・焼却炉立上げ立下げ工程の管理

No.5 消石灰使用量の削減



2023年度	目標	122.6 t
	実績	130.7 t
	達成度	-6.6 % 増加

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更

①SO₂・HClの急上昇補正

30分移動平均を用いたリモートSVの設定導入と経過観察

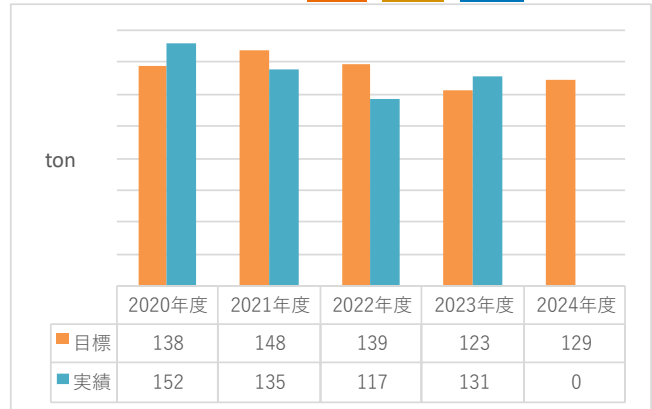
②新薬剤の運用と経過観察 (2023年度より)

結果と評価

- ・2024年問題を踏まえ消石灰の品種を1から2種へ増やし調達力の安定化を図った。
- ・新品種の組成の変化により、排ガスとの反応状況が変化したため、目標は達成できませんでした。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更



No.6 苛性ソーダ使用量の削減



2023年度	目標	3,175 L
	実績	2,048 L
	達成度	35.5 % 削減

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更

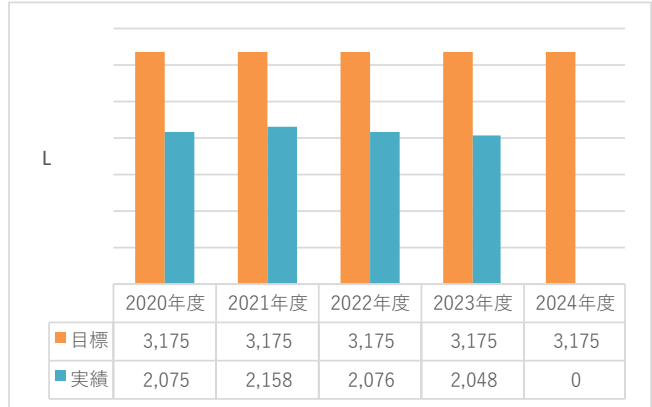
①灰汚水移送ポンプの運転方法変更についての経過観察

結果と評価

- ・設定値の確認と変更が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更



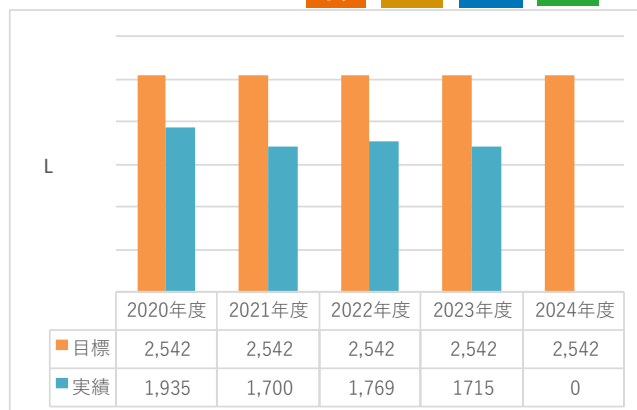
No.7 塩酸使用量の削減



2023年度	目標	2,542 L
	実績	1,715 L
	達成度	32.5 % 削減

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更
 - ①灰汚水移送ポンプの運転方法変更についての経過観察



結果と評価

- ・設定値の確認と変更が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更

No.8 飛灰処理薬剤使用量の削減



2023年度	目標	14,771 L
	実績	13,683 L
	達成度	7.4 % 削減

主な取組内容

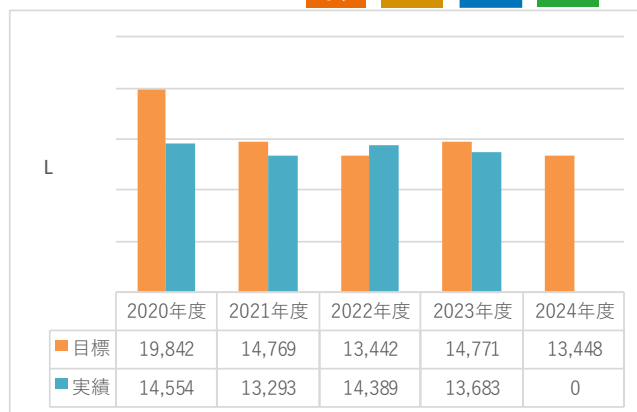
- ・飛灰の適正かつ効率的な処理
 - ①余剰薬剤量の自主分析
 - ②薬剤添加率設定変更についての経過観察
 - ③新薬剤の運用と経過観察 (2022年度より)

結果と評価

- ・飛灰処理物に薬剤添加量の不足がないことを分析で担保しつつ余剰添加量の削減に努めたことで目標を達成できました。

次年度目標

- ・飛灰の適正かつ効率的な処理
- ・及び余剰薬剤量の自主分析及び薬剤添加率の設定最適化



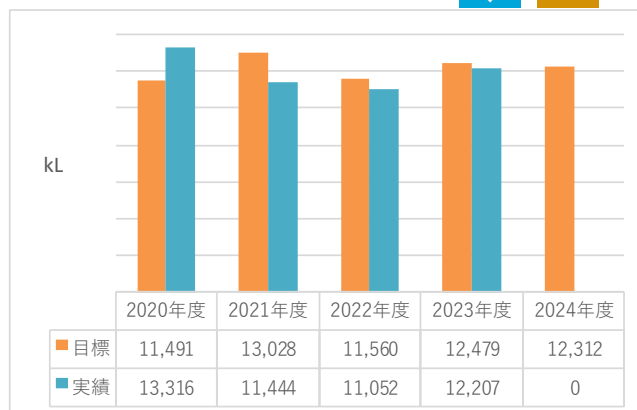
No.9 上水使用量の削減



2023年度	目標	12,479 kL
	実績	12,207 kL
	達成度	2.2 % 削減

主な取組内容

- ・ 上水使用量の確認と無理のない節水
 - ①生活水の節水喚起
 - ②植栽への雨水の積極利用
 - ③焼却炉の安定稼働



結果と評価

- ・ 焼却炉の延命化のため、炉内水噴霧量の設定を増加する方向へ変更しましたが、生活水の節水等の取組みにより、目標を達成できました。

次年度目標

- ・ 上水使用量の確認と無理のない節水

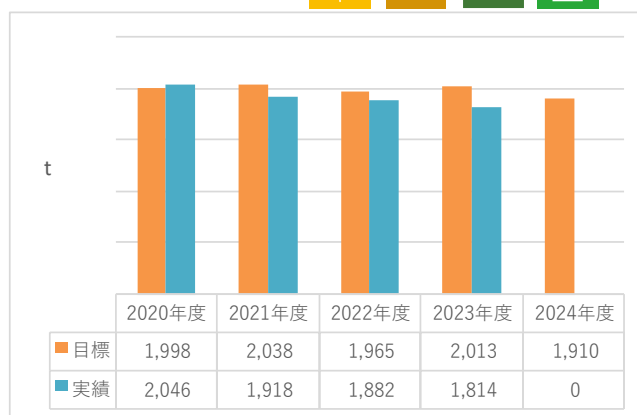
No.10 焼却灰搬出量の削減



2023年度	目標	2,013 t
	実績	1,814 t
	達成度	9.9 % 削減

主な取組内容

- ・ 焼却炉の安定稼働および完全燃焼



結果と評価

- ・ 焼却炉の安定稼働を継続できたことにより、目標を達成できました。

次年度目標

- ・ 焼却炉の安定稼働および完全燃焼

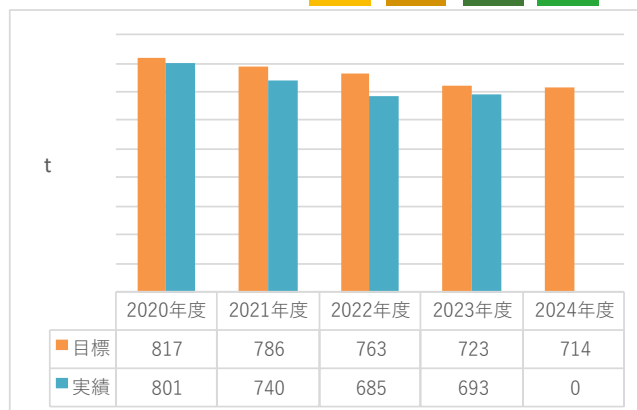
No.11 飛灰搬出量の削減



2023年度	目標	723 t
	実績	693 t
	達成度	4.2 % 削減

主な取組内容

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼
- ・飛灰処理添加水比率の最適化



結果と評価

- ・飛灰処理に使用する水の添加が過剰とならぬよう、適正な調整を行うことで処理物の生成量を削減できました。

次年度目標

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼

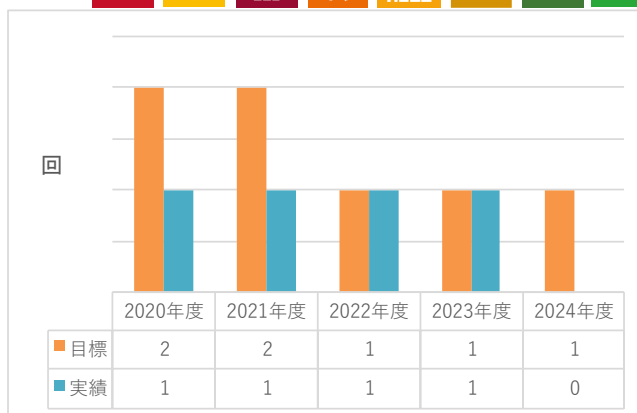
No.12 集客イベントの有効性の向上（社会貢献）



2023年度	目標	1 回
	実績	1 回
	達成度	達成

主な取組内容

- ・イベントの計画及び実施
 - ①第8回ecoポップ『ふれあいフェス』（7/23）
 - ②組合広報誌「えこぼんだより」発行（下期）



結果と評価

- ・集客イベントを計画通り実施し、来場者数は228人と好評であった。
- ・下期は組合広報誌の発行に協力。当センターに関する最新の情報や取り組みなど地域住民の方々へ、情報の公開と共有を行いました。

次年度目標

- ・イベントの計画および実施

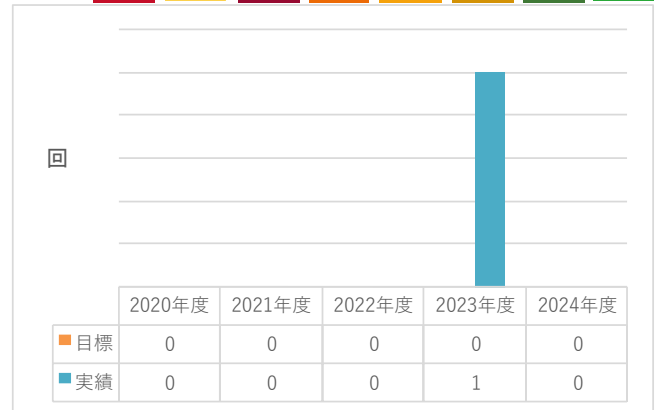
No.13 緊急停止0（タービン非常停止）



2023年度	目標	0 回
	実績	1 回
	達成度	未達成

主な取組内容

- ・異常の早期発見
 - ①連系する配電系統の容量増減の把握
 - ②構内設備の増減に伴う整定値等の見直し
 - ③日常・月次・年次点検の実施



結果と評価

- ・電力系統との保護協調が有効であり、系統側のトラブルの際に停電およびタービン非常停止を回避できました。
- ・施設内の重要機器に凍結によるトラブルが発生したため、タービンが非常停止しました。

次年度目標

- ・異常の早期発見及びトラブルの原因究明と再発防止措置の実施
- ・自主保安点検の実施、電力会社との情報共有

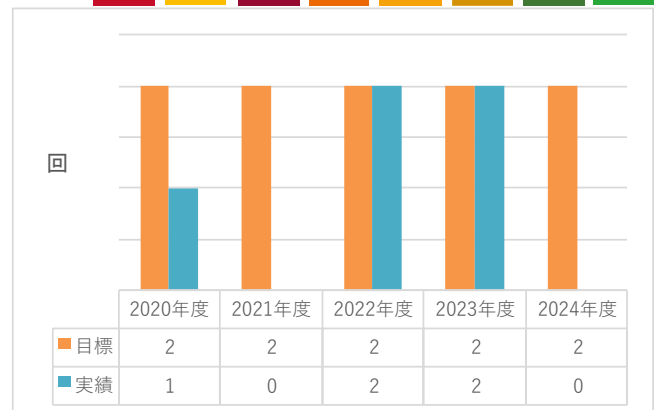
No.14 地域清掃活動参加（社会貢献）



2023年度	目標	2 回
	実績	2 回
	達成度	達成

主な取組内容

- ・地域の清掃活動に参加
 - ①諏訪湖一斉清掃活動に参加（5月）
 - ②クリーンセンター周辺清掃活動に参加（12月）



結果と評価

- ・計画通りに清掃活動に参加しました。環境に携わる事業をさせていただいている弊社として、1つのごみも見逃さないよう全力で清掃活動に取り組みました。

次年度目標

- ・地域の皆様に愛される企業であるよう、清掃活動に積極的に参加

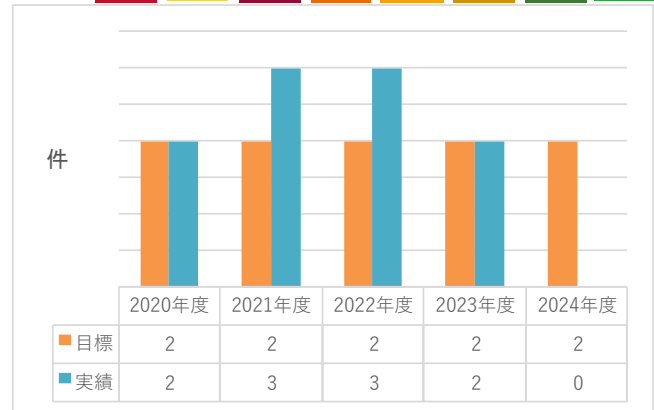
No.15 改善提案



2023年度	目標	2 件
	実績	2 件
	達成度	達成

主な取組内容

- ・改善提案の立案
 - ①安全作業、コスト削減に関わる改善箇所の確認及び提案票の提出



結果と評価

- ・コスト削減と環境負荷低減及び調達業務の効率化に関する提案票の提出があった。
- ・安全に関しては、提案票の提出はなかったが、毎月実施される安全衛生活動において逐次不安全箇所の確認と改善を実施している。

次年度目標

- ・第一に安全、その上でコスト削減、作業の効率化、環境負荷低減等に向け引き続き改善に努める。

7. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

本施設に適用される法令等は下表のものが該当し、2024年3月31日現在すべての遵守が確認できています。

また、過去5年間にわたり関係当局から違反等の指摘はありません。

法令等	主な法規制等内容	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・適切な処理	○
大気汚染防止法	・規制値の遵守	○
水質汚濁防止法	・事故時の措置（事故の有無）	○
下水道法	・規制値の遵守	○
ダイオキシン類対策特別措置法	・規制値の遵守	○
騒音規制法	・規制値の遵守	○
振動規制法	・規制値の遵守	○
悪臭防止法	・規制値の遵守	○
労働安全衛生法	・体制の整備 ・危険・健康障害防止措置	○
作業環境測定法	・作業環境測定	○
消防法	・選任、届出	○
毒劇法	・取り扱い、表示	○
公害の防止に関する条例	・上乘せ基準	○
フロン排出抑制法	・簡易点検 ・有資格者による定期点検	○
岡谷市公害防止条例	・規制値の遵守	○
要求水準（環境関連）	・規制値の遵守	○

8. 代表者による全体評価と見直し

EA21 マネジメントレビュー記録

2023 年度

(1/2)

インプット（審議事項）	アウトプット（見直し結果：代表者指示）
<p>(1)問題事項及び是正処置 （各部署長）</p> <p>① 施設の運営での問題点：凍結対策の再検討外的要因（変電所故障等）や凍結によるトラブルがあったが、ほぼ計画通りの運転ができた。また、2024 年問題を踏まえ用役調達力の安定化を図り、備える体制を構築できた。</p> <p>② 改善提案：2 件</p>	<p>① トラブルへの対応内容を共有し、技能と知識を向上させると共に、想定される事象への対応手順書を充実させること。</p> <p>② 第一に安全を重視、その上でコスト削減に向け改善に努めること。</p>
<p>(2)地域住民などの利害関係者からの苦情及び是正処置（詳細は年次報告書）（環境管理責任者）</p> <p>① 苦情：地域からの苦情はなし</p> <p>② イベントの総括：来場者数 228 名となった。</p>	<p>① 維持するよう努めること。</p> <p>② コロナ禍の経験を生かしたウィルス対策に心掛けながら、施設や環境問題へ関心を持ってもらう工夫を模索していくこと。</p>
<p>(3)法規制、遵守評価、社会状況の変化（環境管理責任者）（環境法規制等取りまとめ表）</p> <p>① 遵守評価の懸念事項：なし</p> <p>② 新型コロナウイルスの感染再拡大</p> <p>③ 関連法規制の改正等はなし</p>	<p>① 維持するよう努めること。</p> <p>② 社会の対応状況に準ずるも、各種ウィルスからの感染防止対応を続けること。</p> <p>③ 法改正に注視し対応に漏れの無いよう努めること。</p>
<p>(4)目標の達成状況（事務局）</p> <p>① 共通休炉期間において節電計画を実行したことにより購入電力の削減ができた。</p> <p>② 焼却炉の非常停止やホッパブリッジ等による計画外のバーナ使用が発生したが、立上げ工程の管理により、灯油使用量の削減ができた。</p>	<p>① 安全衛生を重視しながらも電力削減できる点が無いかあきらめず追及すること。</p> <p>② 工程管理を継続できるよう努めること。</p>

インプット（審議事項）	アウトプット（見直し結果：代表者指示）
<p>(4)目標の達成状況（事務局）</p> <p>③ 2024年問題を踏まえ消石灰の品種を1から2種へ増やし用役調達力の安定化を図った。ただし、新品種の組成の違いにより、排ガスの反応状況が変化したため、消石灰の使用量の削減はできなかった。</p> <p>④ 集客イベントを計画通り実施し、好評であった。下期においては代替イベントとして、組合殿発行広域誌の配布を行った。</p> <p>⑥ 電力システムとの保護協調は有効であったが、冬期において凍結を要因とするタービン緊急停止が発生した。</p>	<p>③ 必要量の使用を継続し、過剰使用による無駄が無いかが監視を続ける事。 一元的な視点に留まらず、施設全体としてメリットのある改善があれば取り入れるべき。</p> <p>⑤ 必要なウイルス感染対策を行った上で、地域の皆様に喜んでいただけるコンテンツの提供に努めること。</p> <p>⑥ 問題点の洗出しと再発防止策の検討及び実施を行い、技能と知識の向上と安定操業に努めること。</p>
<p>(5)負荷の自己チェック、取組の自己チェックの結果（事務局）</p> <p>① タービン緊急停止：1回</p> <p>② 使用薬品量の低減：ごみ質の変化や薬品の品種の変化等により消石灰の使用量の削減ができなかった。</p> <p>④ 地域イベント：イベントを計画通り実施し、好評であった。</p>	<p>① 継続するよう努めること。</p> <p>② メリットがどこにあるか多次元に判断しながら、削減可能な部分が無いかを追求すること。</p> <p>③ (4)⑤のアウトプットと同様。</p>
<p>(6)改善の提案</p> <p>E A 2 1の活動 安定安心の活動をさらに推進する。</p>	<p>施設が安定期に入った反面、設備の消耗による劣化など新たに対処すべき事象も増えている。経験やノウハウの蓄積と活用に努め安定安心の操業を目指してほしい。</p>
<p>方針、目的、目標、EMSの見直しの必要性の言及</p> <p>〈方針〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p> <p>〈目標〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p> <p>〈環境経営システム〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p>	<p>eco ポップマスコットキャラクター 「えこぼん」</p> 